

輕薄なるを認む。然れども翻て、其の回城を一見せし者は、何人と雖も、教會堂の夥しきに一驚を喫せん。其の大小を計上するに、正しく八十餘場に及び、就中最大なるを、回城の東北里餘の邊、老木鬱蒼たる森林中に在る教會堂とす。場内には、阿克伯^{ベギ}の墳墓あり。蓋し吐魯番に亞ぐ靈場として、回教徒の來拜する者引きも切らず。精神を談じ、靈界を説く宗教の力も、未だ人情の浮薄を矯むるに足らざるか。

嘗て瑪哈默特^{マホムト}蘇勒^{スル}旦^{ダン}此地に布教するや、遂に土會を逐ふて汗位に即き、以來世々回部王の居城と爲り。近くは阿克伯に至る迄、回教の政令教令は常に此地より天山南路に流布せしのみならず、古來西方文學の進入口たるの故を以て、喀什噶爾の名は、古くより沿く世界の知る所と爲れり。

聞く纏頭其他の露境内に入らんとするには、地方衙門の路票^{即ち證明書の如き}のを得る^{のれ}外、露國領事の捺印證明を要し、而も其の手數料銀壹兩五錢を領事に納めざるべからざるに反し、露人の清國內に來る者は、何等の課する所なしと。斯る類例は、獨り這般の事に止まらざるものゝ如し。

此地より露領に通ずる道路數條あるも、其の内二道の外は、山中游牧民等の相往